

2020 年 3 月 23 日 決算テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

Q. 足元で、新型コロナウイルス感染症の拡大が続いているが、御社の足元への影響について

A. 足元の 2 月の稼働率は、平時のレベルで推移しました。3 月末のお客様事情による契約解除も、平時と変わらないレベルの件数でした。また、契約解除のあったエンジニアの内、先週末 3 月 19 日時点において、概ね 60%の再配属先が決定している状況です。契約解除の場合、お客様から 1 か月前に連絡をいただくルールとなっておりますが、現時点では、4 月末のお客様からの契約解除の連絡はない状況です。

まとめますと、2 月、3 月、4 月のエンジニアの稼働は、現時点では、平時と変わらず推移しております。

Q. 今回、中期経営計画で追加した「新たな専門技術領域の開拓・模索」の詳細について

A. 技術者派遣を行う同業他社の活動領域を研究しながら、今後、拡大していく専門技術領域を確定したいと考えております。現時点では、IT 関連、素材系の研究開発領域、土木建築領域を中心に、現在、M&A 案件の模索を進めている状況です。

Q. リーマンショックの際に、かなり御社も厳しい状況になったと記憶している。その当時と比べて、御社の体質、外部環境が変化していることもあり、御社のように上流工程に派遣する会社は、現時点では、さほど今回の新型コロナウイルス感染症の影響が出ていないという理解でよいのか。

A. 大きな点では、リーマンショック当時は、お客様事情による契約解除の件数が非常に多かったのですが、現時点では、2 月、3 月、4 月のお客様からの契約解除の件数は、3 月末には一定数、契約解除となっておりますが、平時と、あまり変わらないレベルです。

また、リーマンショック当時は、お客様からエンジニアの再配属の需要そのものが、長期間に渡りございましたが、現在は、エンジニアの再配属の需要が継続しており、非常に早い段階で進捗しております。これらが、現在とリーマンショック当時と異なる特徴と考えます。

また、当社の企業体質として、リーマンショック当時は、当社のエンジニアの配属に関して、下流工程の比率が高かったため、景気減速感が出たときに、契約解除が発生しました。

現在は、上流工程の比率を約 8 割に高めております。また、現時点では、下流工程のプロダクトバリューのエンジニアに関しても、お客様からの契約解除の連絡がない状況です。このような企業体質の改善により、筋肉質な事業構造となり、この新型コロナウイルス感染症の拡大による外部環境の変化への耐性が高まったと考えております。

Q. 請負・受託のウエイトを上げていく意図について

A. 多種多様な人材を活用する場として、請負・受託の職場環境を整えることが狙いです。

多種多様な人材とは、外国人、シニア、同業他社等であり、これらの方々を活用することで、正社員にプラスアルファして稼働人数を増加させていきます。

以上